３１葛工高第 2004 号
令和２年　３月３１日

平成３１年度 学校経営報告

東京都立葛西工業高等学校長
福　田　健　昌

１　目指す学校（平成３１年度）

優れた工業技術者・技能者の努力によって、我が国は工業立国として目覚ましい発展を続けてきた。更なる発展のためには、引き続いて工業技術者・技能者の育成が不可欠である。

本校は、創立以来ものづくり人材を育成・輩出し、東京の産業の発展を支える役割をはたしてきた。校訓を『真理を愛し、勤労をたっとび、責任を重んずる』と掲げ、５７年間に渡りゆるぎないものとしている。技能を重視した工業高校のリーダー校として、基本的人権の精神を涵養させる。また、生徒一人一人が、「義務と責任」を自覚するとともに、豊かな創造性と独創性を発揮し地域に貢献する学校を目指す。

工業高校は普通科高校と比較して、積極的に志望する生徒の割合が少ない課題が明らかとなっている。全教職員が協力体制をもって、積極的な募集活動を行う。

(1) 広報活動を充実させ、産業界のニーズに応えられる人材を育成する。
(2) 学習指導、進路指導、生活指導を充実させ、心身共に健康な生徒を育成する学校。
(3) 工業技術者・技能者としての基礎・基本を習得し、キャリア教育を通して工業人としての職業観・勤労観を育む学校
(4) 学校行事、部活動、資格取得、ボランティア活動、地域活動へ積極的に参加し、潜在能力を発現させコミュニケーション能力を高め明るく元気で挨拶のできる生徒を育成し「生きる力」を高めさせる。個性･能力を一層伸ばして、自信と誇りのもてる活力ある学校。
(5) 「ものづくり教育」の拠点として、地域から期待される学校。
(6) 全教職員が『ライフ』と『ワーク』を両立させ心で支えあい、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスが実現され、教職員個人にとっても組織にとっても、メリットのある関係を築く。

上記目標に基づき、具体的な取り組み・成果・課題を以下に示した。
（A…大いに成果あり。B…概ね成果あり。C…やや成果あり。D…成果なし、改善が必要）

２　今年度の取り組み目標の方策と成果・自己評価

平成３１年度の経営計画における目標・方策	具体的な取り組み・成果と課題	自己評価
(1) 教育活動の目標と方策 生徒の実態に即し、P（計画）→D（実施）→C（評価）→A（改善）サイクルを定着させ、常に改善・充実を図る。 いじめ・差別・暴力そして体罰は、絶対に認めない・許さない・見逃さない方針を周知・徹底し、安心して学び、一人一人が力を発揮できる教育環境創りに学校を挙げて取り組む。		B
①　学習指導		B
1　生徒の現状に基づいて、各教科・科目の授業内容を精選し、基礎・基本を重視した自校の学力スタンダードを定め、学ぶ意欲を高め、学力の定着を図る。	1　基礎・基本を重視した学習内容とし、その定着を図るとともに、取り組みの低い生徒には、学期ごとに保護者面談を実施し、保護者の協力を求めて指導にあたった。また、定期考査に欠席した生徒の一覧表を作成して個別指導に活用する仕組みとした。 【課題】成果の上がらない生徒への指導法の研究と基礎学力を定着させること。	B
2　工業人として身に付けさせるべき技術・技能の目標を明確に定めた技能スタンダードに基づき、基礎的技能を習得させるとともに、学習意欲を高めさせ技能向上を図る。	2　生徒は身に付けるべき技能・技術をしっかり認識して学ぶ意欲が一層高まった。より、専門的な資格取得への取り組みが図られるようになってきた。 【課題】意欲の低い生徒への指導法の研究。	B
3　授業時数の確保に努め、習熟度別授業、少人数授業等により、生徒の理解度に応じた授業を展開し、基礎学力の定着を図るとともに発展的内容を取り入れる。	3　授業を大切にする態度を育成し、英語・数学における習熟度別授業、家庭科、工業４科における少人数制授業を実現し、個別指導を可能にして、基礎学力の定着を図った。また、学業不振者の実情を明らかにし、その後の補講・補習を実施するとともに課題の提出を求めた。 【課題】授業時数の確保に課題がある。また、個別指導にのらない生徒への指導法の研究を進め基礎学力の定着を図ること。	B
4　学校全体で授業規律の確保に努め、各教科・科目で、基本的な学ぶ姿勢の指導を徹底する。	4　チャイムと同時に授業開始することを実現してきたが、一部徹底を欠いた向きもある。 【課題】チャイムと同時に授業開始することを学校全体の取り組みとすること。	B

5　生徒による授業評価と指導法の研究を実施するとともに、教員相互の授業見学や公開研究授業・研究協議会・校内研修等を行い、授業力向上に努め、授業改善を進める。	5　研究授業を１８回実施するとともに公開研究授業後の研究協議を必ず実施し授業力向上を図った。 【課題】研究授業後の研究協議を一層充実させるとともに教員相互の授業見学を推進し校内研修に結びつけること。計画的に校内の若手教員育成研修を実施し、一層の授業力向上に努めること。	B
6　専門教科においては、実験･実習を通して理論と基礎技能･技術を身につけさせる指導を充実させ、自校で実施できる資格取得講習会の機会を拡充させる。また、地域産業界(熟練講師）や職業能力開発センターとの人材交流等の有効活用を図り、教育効果を高める。	6　アーク溶接・ガス溶接技能講習、技能士（普通旋盤作業３級）は本校を会場として実施し資格取得指導を推進した。地域産業界やマイスター派遣による授業、地域工場会も参加した技術交流会を実施した。また、建築科は市民講師など外部人材を活用した事業を展開した。 【課題】一層、工夫改善して生徒の参加しやすい形態とすること。また、職業能力開発センターとの人材交流は次年度への課題となった。	B
7　生徒が自ら調べ、考え、発表(プレゼンテーション）できる能力を伸長させる。	7　機械科・電子科・建築科の３学年次課題研究発表会では２学年を対象に実施した。 　工業科生徒研究成果発表大会では、建築科の３年生が発表を行った。 　３校合同、デュアルシステム発表会では、デュアルシステム科の２年生が発表を行った。２学年のインターンシップ、長期就業訓練については、１学年全員の前で合同発表を行った。協力企業や保護者の参観もあり、プレゼンテーション能力を高めるとともに、２学年次の事前学習となった。一方、新型コロナウイルス対策における臨時休業のためデュアルシステム科でお世話になった企業の社長へのインターンシップ報告会が中止となった。 【課題】内容の一層の充実を図るため、全校生徒・保護者を対象に発表会を実施すること。	A
8　教科「人間と社会」の活動を通して他人に共感し、社会に役立つ喜びを体感させ、進んでボランティア活動や奉仕活動に参加する生徒を育成する。	8　教科「人間と社会」では、次年度のインターンシップに向けた準備を始めた。一方、新型コロナウイルス対策のため本校で実現した中学生を対象とするバドミントン大会は中止とした。 【課題】様々なボランティア活動・奉仕活動に多くの生徒が積極的に参加する意識を高めること。	B
9　ＩＣＴ機器を積極的に活用できる能力を高めるとともに情報モラルを身に付けさせる。	9　情報モラル教育を推進するため、セーフティ教室でインターネット（ＳＮＳ）などの情報を賢く活用するための心構えと、危険を正しく認識するための重要性を理解させた。 【課題】インターネットや携帯電話の安全管理意識を高める指導を徹底すること。	B
10　体力テストを行い生徒の体力向上に向けた指導法の改善を図るとともに、オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。	10 各授業においてオリ・パラ教育を実施した。体育大会では団旗とＴシャツの色を五輪カラーにした。 　江戸川区ボッチャ大会には、生徒会の生徒が参加し、特別支援学校の生徒との交流を深めた。 【課題】年度当初からオリンピック・パラリンピック教育に取り掛かり学校全体の取り組みとすること。ボッチャ等、特別支援学校との連携を一層図る。	B
②　**進路指導**		B
1　人間としての在り方・生き方の指導を充実させ、自己実現に向ける意識を高める。このため、毎学年進路調査を実施し統計処理して公表する。	1　各学年に１回以上、進路希望調査を実施した。入学時に入校時アンケートを実施し、進路希望をはじめ、高校生活での希望や取り組みを明らかにして面談に活用した。 【課題】統計処理を行い、経年変化を掴み生徒指導に役立てること。	B
2　進路指導部・学年を中心に外部講師を活用するなど、進路ガイダンスを一層充実させる。	2　３年間のキャリア計画に基づき、毎学年に外部講師を招いた進路ガイダンスを実施し、進路意識の向上を図った。初めての試みとして、３年生が１年生に向けた講話を実践した。 【課題】進路指導部・学年との連携を強化すること。	B
3　２学年全員を対象としたインターンシップを拡充させる。	3　今年度より希望制から全員参加型のインターンシップに変更した。参加者１４２名。受け入れ企業２３６社。また、全職員による企業訪問や連絡体制を作った。 【課題】インターンシップ・デュアルシステム科受け入れ企業を一層増加させること。	B

③　生活指導		B
1　遅刻指導、服装・頭髪指導等の改善・充実を進め、基本的生活習慣の確立と規範意識の指導を徹底して、場に相応しい振る舞いのできる生徒を育成する。	1　毎朝の正門指導により生徒への声かけを実施して対話型の指導を定着させ、生徒は教員の指導によく従っている。指導の成果が上がらない場合には段階的な指導を実施する方針が定着した。 【課題】生徒が自ら考え、判断して行動できる能力の育成。取り組みが進まない生徒への指導体制の構築。	B
2　日常の清掃活動等を通して、教室美化・校内美化に自ら目を向ける指導を行い、施設や設備を大切に扱う態度を育てる。 　また、ごみの分別を図ると共にリサイクル教育を徹底する。	2　日々の清掃活動で役割を明確にして責任を持たせる指導を充実させた。リサイクル教育推進のため、ペットボトルを再利用して植木鉢を製作し無料配付している。 【課題】一層、校内美化意識を育て、リサイクル教育を充実させること。植木鉢の人気が高く製作が追い付かなかった。いつでも配付できる体制とすること。	B
3　自己の可能性を引き出し、個性を発見･発揮できる機会を増加させるため、学校全体で、部活動を奨励するとともに、学校行事を一層精選・充実させる。	3　５月には８７．１％の加入率であったが、１２月でも８７．１％であった。（延べ人数） 【課題】対外活動・早朝延長活動・休日活動等の届けを生徒自ら提出する仕組みを徹底させ、生徒自ら部活動を運営する意識を向上させ、一層加入率を向上させること。	B
4　努力した生徒、成果をあげた生徒を認め、励ます、褒める指導を行う。集会で表彰を行う。	4　資格取得や部活動での表彰は必ず全校集会にて伝達式を実施した。自転車部はインターハイ、全国大会出場を果たした。マシンクラフト部では、6年ぶりに全国大会へ出場した。 　東京都を代表して出場する際には部活動委員会が中心となって壮行会を実施した。 【課題】一層、部活動の対外活動実績を向上させること。	B
5　いじめ・差別・暴力をなくすため、スクールカウンセラーを一層活用し、養護教諭・学年・生活指導部との連携を強化して、教育相談機能を高め、未然防止･早期発見に努める（１学年全員がスクールカウンセラーと面談する機会を設定する）。	5　特別指導の際には、スクールカウンセラーとの面談を義務付け心のケアを実施した。また、１学年全員にスクールカウンセラーとの面談を義務付け課題をいち早く発見できる仕組みとした。 【課題】スクールカウンセラーとの全員面談を１学期末までに終わらせる工夫を行う。	B
④　特別活動･部活動		B
1　部活動加入率を高め、生徒自ら自主的に運営できる能力を育成するとともに、加入率１００％を目指す（アルバイト原則禁止を徹底させる）。	1　入学後、体験入部期間を設け４月中に入部する仕組みとした。アルバイトの原則禁止を徹底するため、アルバイト届を提出させることとした。 【課題】アルバイト届の提出が一部徹底を欠いた。５月の加入状況を１２月にも維持させること。	B
2　生徒会活動の活性化を図り、体育大会・江紫祭等の学校行事を一層充実させ、自主･自律の精神を涵養する	2　学校行事の充実を図るとともに、生徒自ら企画運営する指導を推進した。一之江駅前祭り、イルミネーションミュージックねぶた祭では、他校（六郷工科高校・白鷺特別支援学校）との連携を図り、一之江駅前でのねぶた巡行を実現した。 【課題】一層、当事者意識を育て一人一人の帰属意識を高めること。ねぶた巡行の安全・充実を図ること。 今年度設置した実行委員会を活性化して一層生徒の自主性を高め、体育大会と文化祭の接続を図ること。	A
3　校歌指導の充実を図り、入学生に上級生自らが指導できる体制とする。	3　全校生徒で校歌を歌えるよう生徒会の発案により始業式と終業式ではお手製の歌詞カードを配り、実施できるところまで成長した。 【課題】入学式・卒業証書授与式等の式典で、生徒によるピアノ伴奏・校歌紹介を実施すること。	B
4　地域の社会貢献や思いやりの心を育み、豊かな人間性を育成する。地域との連携を一層強化し愛される学校づくりを推進する。	4　生徒会の生徒を中心に地域のイベントに参加させた。参加した生徒はお褒めの言葉をいただいた。地域との連携は充分強化されたものと評価できる。 【課題】これらの体験により、生徒が自発的に奉仕活動・ボランティア活動に参加すること。	A

⑤ 健康づくり		B
1　学校におけるスポーツ活動全般の支援を進め、心と身体を鍛える。	1　体育大会・競技大会・マラソン大会等、学校行事としての取り組みを推進した。 【課題】生徒の体力と精神的耐性が低下している現実を重く受け止め、あらゆる機会を通じて、心と身体を鍛えること。	B
2　学校保健計画に基づき、健康増進・安全指導を充実させる。保健だよりの発行等を通じて、健康全般への意識を向上させる。万全なるインフルエンザ対策を講じる。	2　保健だよりの発行（年間１０回）により、日々の健康増進について呼びかけ、周知・徹底した。インフルエンザによる学級閉鎖は起きなかった。 【課題】学校保健委員会を年に２回実施し、健康教育を充実させること。	B
3　防災教育、交通安全教育、薬物乱用防止教室、普通救急救命講習会等を充実させ、自他の健康・安全を守る力を育成し、生命の尊厳について認識させる。	3　セーフティ教室を実施し、交通安全・薬物乱用・情報モラルを題材として全校生徒に意識を高めさせた。また、一泊二日の宿泊防災訓練の実施。近隣の協力を得て１２月に２学年全員で救急救命講習を受講し、資格を得た。 【課題】一層、交通安全教育、特に自転車に関する安全教育の充実を図ること。	B
4　「食育」に関して、家庭と連携し生徒自らが健康や食生活を考える健康指導を充実させる。	4　食の重要性を保護者等に説明し、保護者に弁当持参を強く要請した。学校で購入する生徒は２割程度。 【課題】引き続き食の重要性を訴え続け、弁当持参の生徒を増加させること。	B
⑥ 募集･広報活動（地域交流等）		A
1　募集対策として、中学校訪問、学校説明会、体験授業、入試説明会、個別相談会等に全職員で組織的に取り組む。	1　生徒による施設案内が定着しつつあり、来校者からは好評を得た。また、中学校からの要請に応え中学校に出向いて学校説明を行った。学校広報委員会を中心に組織的な取り組みを行い、夏季休業中の施設見学会を３日４回と体験授業１回をあわせ、合計６９８名が来校した。入試に伴う説明会を７回実施し、６５４名が来校した。中学校に出向いて行った説明会では、江戸川区内の中学校６校、他区の中学校１校を実施した。 【課題】一層、生徒の活躍の場を広げること。また、教員全体での中学校訪問、説明会等の対応の実施。	A
2　広報活動として、全教員での中学校訪問、出前授業、上級学校訪問等に組織的に対応するとともに、江戸川区を中心に地域の行事へ生徒を参画させ地域貢献を推進する。	2　広報委員の生徒による母校訪問の実施（９校）。 江戸川区のイベントに生徒を参加させた。教員による中学校訪問を、江戸川区、江東区、葛飾区、荒川区、墨田区、中央区内の全中学校に実施し、本校の教育内容等を説明した。 【課題】学校案内の完成時期を早める。今年度は６月初旬納品であった。	A
3 学校公開、年２回の授業公開週間を実施し地域に開かれた学校づくりを推進する。	3　通年に渡り学校公開し、中学生や保護者の学校見学（１９名）を受け入れた。 授業公開週間を２回設定したが、来校者は３９名（１回目２９名、２回目１０名）と少なかった。 【課題】授業公開週間を行事に合わせる等、来校し易く改善すること。	C
4 江戸川区教育委員会、小･中･高校、産業団体等との連携･交流を推進する。	4　江戸川区教育委員会との連携が始まった。具体的な手立てを検討すること。小・中・産業団体との連携は、前年度に引き続き充実した。 【課題】一層、連携先を拡充すること。多くの地域活動に参加し、その都度地域の方々から良い評価をいただき、生徒の自信と活動の原動力となった。 ねぶた部が地域のお祭りに誘致され、ねぶた巡行・和太鼓・お囃子を披露した。 【課題】本校の活動を積極的に外部へ披露すること。このため、誘致される際の対応について学校としての仕組みを構築すること。	A

<table>
<tr><td>⑦　学校経営･組織体制</td><td></td><td>B</td></tr>
<tr><td>1　3 科インターンシップにおける受入れ企業の新規開拓を推進する。</td><td>1　受け入れ企業数（１０６社）の開拓は進んだ。
【課題】インターンシップ受け入れ企業との連携を一層強化して、デュアルシステム科の受け入れ企業に結びつけること。
また、デュアルシステムを実施している他校との交流を図り、参加した生徒とともにデュアルシステム科の合同発表を目指す。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>2　学校運営連絡協議会と学校評価委員会、学校保健委員会の充実を図る。</td><td>2　学校運営連絡協議会では、協議委員の声をいち早く取り入れ、学校経営に活用した。評価アンケートを分析し、生徒・保護者・教員の回答を比較検討できるものとした。
【課題】学校評価アンケートに生徒の生活実態に関する内容を盛り込み、生徒の自己改善に結びつけること。
学校保健委員会を年３回以上実施すること。</td><td>C</td></tr>
<tr><td>3　設備拠点校実習の内容を充実させ、実施率の向上を図る。</td><td>3　連携校の要望通り実施できた。
【課題】一層の見直し改善を図ること。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>4　学校開放事業を拡充し、一層、施設開放・公開講座を充実させ、広く開かれた学校づくりを推進する。</td><td>4　テニスコートの開放を実施した。
　ねぶた部として、金魚ねぶた製作の公開講座を開講した。
【課題】公開講座を一層充実させるとともに、部活動等の公開・体験を推進すること。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>5　将来構想会議を設置し、全教職員で本校のあるべき姿を協議し取り組むべき方策を導き出す。</td><td>5　将来構想会議を実施することが出来なかった。
【課題】年に３回以上設置して、課題解決に向けた取り組みを行う。校務分掌の業務分担の見直しを図り働き方改革へつなげる取り組みを行う。</td><td>C</td></tr>
<tr><td>6　副主任制度を定着させるとともに主幹教諭の役割と責任を明確化させ、組織力の向上と一層の活性化を図る。</td><td>6　副主任制度の定着により、各分掌・学年の組織力が一層向上した。また、主幹教諭の役割・責任を明確化することで校内の人財育成機能が向上した。
教員の人財育成にもプラスの影響があった。
【課題】全ての主幹教諭・主任教諭に役割を与え、一層意欲的に職務を進めること。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>7　学校経営計画に基づく各分掌における組織目標の確立を図る。</td><td>7　各分掌における組織目標を掲げ学校要覧に掲載した。
【課題】学年目標は学年主任会において３年間の全体計画を立案すること。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>8　葛西工業高校通信（校長通信）を月一回発行し、生徒・保護者に学校の現状を伝達するとともに、ホームページに公開し募集対策の一助とする。</td><td>8　葛西工業高校通信（校長通信）は年間１回の発行のみとなってしまった。年度途中にホームページをリニューアルし募集対策につなげる。
【課題】毎月の発行を実現すること。</td><td>C</td></tr>
<tr><td>9　校舎内外の環境整備を進め、生徒の作品を展示できるスペースを設置するとともに、樹木の植樹・草花の植え込みを推進する。また、老朽化した施設設備の改修･修繕･補修を進めるとともに、新たに必要な設備の導入を図る。</td><td>9　学校玄関周りを整備し、製作したねぶたを展示できるスペースを確保し展示した。建築科の作品をＥＶホールに設置した。
【課題】賞状・カップを展示できるスペースを拡充すること。老朽化した施設設備の改修・修繕を一層進めること。樹木の植樹を進めるとともに玄関周りに花の咲くスペースを作成すること。</td><td>B</td></tr>
<tr><td colspan="3">(2) 重点目標と方策</td></tr>
<tr><td>①　基本的生活習慣を確立して、授業に積極的に取り組む意欲と態度を高めさせ、進級率を増加させ、転･退学者を減少させる。</td><td>①　何らかの理由で学校を離れた生徒数　１９名
<table>
<tr><td></td><td>１学年</td><td>２学年</td><td>３学年</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>25 年度</td><td>２８名</td><td>１３名</td><td>２名</td><td>４３名</td></tr>
<tr><td>26 年度</td><td>７名</td><td>１５名</td><td>２名</td><td>２４名</td></tr>
<tr><td>27 年度</td><td>６名</td><td>５名</td><td>４名</td><td>１５名</td></tr>
<tr><td>28 年度</td><td>８名</td><td>６名</td><td>０名</td><td>１２名</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>８名</td><td>１４名</td><td>１名</td><td>２３名</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>２５名</td><td>７名</td><td>０名</td><td>３２名</td></tr>
<tr><td>31 年度</td><td>１３名</td><td>６名</td><td>０名</td><td>１９名</td></tr>
</table>
前年度に比べて、１３名減となった。
【課題】工業科目への意欲をもたせること。</td><td>B</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>1　認め・励ます・褒める指導を一層充実させ、生徒の学ぶ意欲を育てる。</td><td>1　各種資格取得・部活動の成果については、全て集会で伝達式を実施した。東京都を代表して大会に出場する際には、全校集会で部活動委員会が中心となって企画・運営する激励会となった。
【課題】一層の活動を推進する。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>2　学年と分掌間の連携を密にし、生徒の基本的生活習慣の確立を徹底する。</td><td>2　１学期中間考査後に個別指導対策会議を実施し、生徒の実情を全教職員に伝え、学校全体で取り組める仕組みとした。また、些細な出来事も見逃さず、分掌への報告・連絡を密にとり、必要な場合には特別指導・校長指導を実施した。
【課題】生徒の非行の未然防止指導を一層充実させる。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>3　生徒の課題解決のため、保護者との連絡を密にとり、協力・連携を図る。</td><td>3　学業不振者には学期ごとに保護者面談を実施した。
【課題】課題がある生徒への学校全体としての取り組みを強化すること。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>4　非行を未然に防ぐ指導を充実させ、特別指導の減少を図る。</td><td>4　少しの変化も見逃さず指導していく方針を浸透させ、教科・学年・分掌等で組織的に対応することとした。特別指導は１３件から７件へと減少した。
【課題】一層、きめ細やかな指導を進め、保護者との連携を強化すること。非行を未然に防ぐ指導の充実。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>5　皆勤・精勤者を増加させ、遅指導の一層の改善・充実を進め、遅刻常習者の減少を図る。</td><td>5-1　皆勤・精勤者の推移（目標６０％）
<table>
<tr><td></td><td>１学年</td><td>２学年</td><td>３学年</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>25 年度</td><td>65 名
35.2%</td><td>38 名
24.1%</td><td>56 名
35.2%</td><td>159 名
31.9%</td></tr>
<tr><td>26 年度</td><td>94 名
51.9%</td><td>57 名
36.4%</td><td>28 名
19.3%</td><td>179 名
32.1%</td></tr>
<tr><td>27 年度</td><td>52 名
29.1%</td><td>56 名
32.4%</td><td>56 名
39.4%</td><td>164 名
39.2%</td></tr>
<tr><td>28 年度</td><td>67 名
36.8%</td><td>49 名
29.0%</td><td>36 名
21.3%</td><td>152 名
29.2%</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>72 名
11.2%</td><td>35 名
19.9%</td><td>41 名
25.3%</td><td>96 名
18.6%</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>65 名
13.2%</td><td>77 名
14.7%</td><td>56 名
11.4%</td><td>198 名
40.4%</td></tr>
<tr><td>31 年度</td><td>56 名
31.5%</td><td>45 名
29.2%</td><td>61 名
37.7%</td><td>162 名
32.8%</td></tr>
</table>
８ﾎﾟｲﾝﾄ減少している。
（新型コロナウイルス対策のため、臨時休業日あり）

5-2 遅刻１０回以上の生徒（目標２０％以下）
<table>
<tr><td></td><td>１学年</td><td>２学年</td><td>３学年</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>25 年度</td><td>36 名
19.9%</td><td>53 名
33.4%</td><td>57 名
35.8%</td><td>146 名
29.3%</td></tr>
<tr><td>26 年度</td><td>57 名
31.5%</td><td>61 名
38.9%</td><td>62 名
42.8%</td><td>180 名
37.3%</td></tr>
<tr><td>27 年度</td><td>57 名
31.8%</td><td>29 名
16.7%</td><td>34 名
23.9%</td><td>120 名
24.3%</td></tr>
<tr><td>28 年度</td><td>48 名
26.4%</td><td>84 名
49.7%</td><td>87 名
51.5%</td><td>219 名
42.1%</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>39 名
21.9%</td><td>51 名
30.0%</td><td>61 名
37.7%</td><td>151 名
26.3%</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>45 名
25.1%</td><td>20 名
11.6%</td><td>40 名
24.8%</td><td>105 名
20.5%</td></tr>
<tr><td>31 年度</td><td>25 名
14.0%</td><td>40 名
30.0%</td><td>19 名
11.7%</td><td>84 名
17.0%</td></tr>
</table>
３ポイント減少した。
【課題】遅刻常習者を減少させること。
（新型コロナウイルス対策のため、臨時休業日あり）</td><td>B</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>6　部活動の加入率を向上させ、一層の活性化を進め帰属意識を高めさせる。</td><td>6　加入率は80%前後で推移している。
<table><tr><td>加入率</td><td>５月期</td><td>２学期末</td></tr><tr><td>23 年度</td><td>85%</td><td>未調査</td></tr><tr><td>24 年度</td><td>80%</td><td>未調査</td></tr><tr><td>25 年度</td><td>82%</td><td>未調査</td></tr><tr><td>26 年度</td><td>87%</td><td>56%</td></tr><tr><td>27 年度</td><td>88%</td><td>67%</td></tr><tr><td>28 年度</td><td>83%</td><td>82%</td></tr><tr><td>29 年度</td><td>86%</td><td>74%</td></tr><tr><td>30 年度</td><td>80%</td><td>81%</td></tr><tr><td>31 年度</td><td>87%</td><td>87%</td></tr></table>【課題】兼部をしている生徒を含め、しっかり活動させるための工夫・改善を進めること。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>②　就職希望達成率１００％を維持し、卒業時の未就業者を無くす。</td><td>② 就職希望達成率10年連続１００％達成
<table><tr><td></td><td>就職
希望者</td><td>就職
内定者</td><td>進学
希望者</td><td>進学
決定者</td><td>内定
合計</td><td>卒業者
数</td></tr><tr><td>22年度</td><td>103名</td><td>103名</td><td>34名</td><td>32名</td><td>135名</td><td>137名</td></tr><tr><td>23年度</td><td>95名</td><td>95名</td><td>51名</td><td>48名</td><td>143名</td><td>146名</td></tr><tr><td>24年度</td><td>91名</td><td>91名</td><td>50名</td><td>47名</td><td>138名</td><td>141名</td></tr><tr><td>25年度</td><td>99名</td><td>99名</td><td>58名</td><td>49名</td><td>148名</td><td>157名</td></tr><tr><td>26年度</td><td>106名</td><td>106名</td><td>37名</td><td>36名</td><td>142名</td><td>143名</td></tr><tr><td>27年度</td><td>109名</td><td>109名</td><td>28名</td><td>28名</td><td>137名</td><td>138名</td></tr><tr><td>28年度</td><td>127名</td><td>127名</td><td>32名</td><td>32名</td><td>159名</td><td>169名</td></tr><tr><td>29年度</td><td>121名</td><td>121名</td><td>31名</td><td>31名</td><td>130名</td><td>161名</td></tr><tr><td>30年度</td><td>119名</td><td>119名</td><td>32名</td><td>32名</td><td>160名</td><td>161名</td></tr><tr><td>31年度</td><td>127名</td><td>127名</td><td>34名</td><td>34名</td><td>161名</td><td>165名</td></tr></table>【課題】安易な進学を認めない体制を一層強化する。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>1　卒業生・市民講師を活用した進路ガイダンスを年間３回以上行い自己実現に努めさせる。</td><td>1　進路ガイダンスを年間３回実施し進路意識を高めさせた。
【課題】一層　進路意識を高めさせること。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>2　東小松川工場会等の企業見学会･講演会を実施する。</td><td>2　機械科・デュアルシステム科では、東小松川工場会の企業見学会･講演会を実施した。
【課題】東小松川工場会の見学会を三科で実施する。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>3　インターンシップ協力企業を増加させ、全生徒の参加を目指す。

※３１年度はデュアルシステム科受入分業務を合算</td><td>3　インターンシップ協力企業と参加者の推移
<table><tr><td></td><td>協力企業</td><td>参加者</td><td>就職者</td></tr><tr><td>22 年度</td><td>１５社</td><td>３２名</td><td>０名</td></tr><tr><td>23 年度</td><td>３８社</td><td>７１名</td><td>４名</td></tr><tr><td>24 年度</td><td>６０社</td><td>８４名</td><td>９名</td></tr><tr><td>25 年度</td><td>７６社</td><td>１１３名</td><td>１０名</td></tr><tr><td>26 年度</td><td>７６社</td><td>１１７名</td><td>１１名</td></tr><tr><td>27 年度</td><td>６７社</td><td>９３名</td><td>１０名</td></tr><tr><td>28 年度</td><td>９３社</td><td>１４１名</td><td>１３社</td></tr><tr><td>29 年度</td><td>８３社</td><td>１３３名</td><td>２２社</td></tr><tr><td>30 年度</td><td>７１社</td><td>１３８名</td><td>１９社</td></tr><tr><td>31 年度</td><td>136 社</td><td>１４２名</td><td>２０社</td></tr></table>【課題】企業訪問を通じて協力企業数を増加させ、全生徒をインターンシップに参加させること。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>③　国家資格取得者、検定合格･認定者を増加させる。</td><td>③ 各種資格等取得者数参照
数値的には上向き傾向である。
【課題】教科としての取り組みを一層強化すること。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>1　関連する授業等を活用し、各教科における資格取得指導を充実させる。</td><td>1　資格取得と授業との関連を深めて資格取得への意識を高めさせた。普通旋盤３級８名、とび３級７名、鉄筋組立３級３名、第２種電気工事士に１８名が合格した。
【課題】放課後や週休日の活動を充実させる。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>2　資格取得、検定、ものづくりコンテスト等に積極的に挑戦する意識・意欲を高めさせる。</td><td>2　工業科生徒研究成果発表会において、努力賞を受賞するなど、積極的に挑戦する意欲が高まった。
【課題】教科・部活動としての取り組みを一層強化し、コンテスト・発表会への参加意欲を高めること。</td><td>B</td></tr>
</table>

(3) 数値目標（～平成３１年度実績）　B

① １年生の進級率（９０％）目標　昨年度以上の実績
進級者（近年の経緯）

	１学年	２学年	３学年	合計
25 年度	154 名 84.6%	145 名 91.8%	157 名 98.8%	456 名 91.4%
26 年度	173 名 95.6%	142 名 90.4%	143 名 98.6%	458 名 94.8%
27 年度	169 名 94.4%	169 名 97.1%	138 名 97.1%	476 名 96.1%
28 年度	175 名 96.2%	162 名 95.9%	169 名 100.0%	506 名 97.3%
29 年度	172 名 96.1%	161 名 91.5%	161 名 99.4%	494 名 95.6%
30 年度	154 名 86.0%	165 名 95.9%	16１名 100.0%	480 名 93.8%
31 年度	162 名 91.0%	149 名 96.8%	165 名 100.0%	476 名 95.8%

１学年の進級率 91%と増加し、昨年から 5%の上昇となった。
【課題】入学した全ての生徒を進級・卒業させる教育力をさらに向上させること。

B

② 退学者の減少・目標０名

	１学年	２学年	３学年	合計
22 年度	２０名	１４名	４名	３８名
23 年度	１１名	１６名	１名	２８名
24 年度	１４名	９名	２名	２５名
25 年度	２２名	９名	２名	３３名
26 年度	６名	９名	１名	１６名
27 年度	４名	２名	３名	９名
28 年度	２名	２名	０名	４名
29 年度	７名	１０名	１名	１８名
30 年度	２１名	４名	０名	２５名
31 年度	３名	２名	０名	５名

全学年で大幅に減少できた。継続して指導を続け、目標０名を達成する。
【課題】学期毎に、成績不振者の保護者とともに三者面談を実施し、学業に力を入れさせる指導を継続する。また、日々の学習指導を一層強化するとともに、きめ細やかな生活指導を進め、入学した全生徒を進級・卒業させること。また、スクールカウンセラーの活用により、不登校の未然防止に努めること。

C

③ 特別指導件数・対象者数の減少　目標・前年度以下
特別指導件数・対象者数の推移

	１学年	２学年	３学年	合計
25 年度	１４件 １４名	１２件 １２名	１件 ２名	２７件 ２８名
26 年度	１件 １１名	４件 ７名	１件 １名	６件 １９名
27 年度	６件 ７名	５件 ７名	３件 ４名	１４件 １８名
28 年度	８件 １０名	５件 ９名	５件 ５名	１８件 ２４名
29 年度	２件 ３名	５件 １１名	３件 ６名	１０件 ２０名
30 年度	５件 １３名	４件 １０名	４件 １２名	１３件 ３５名
31 年度	３件 １３名	２件 ５名	２件 １２名	７件 ３０名

昨年度１３件から７件へと減少した、指導を行った人数も減少した。
【課題】継続して、きめ細やかな指導を進め、保護者との連携を強化すること。

B

④ 企業における就業体験等参加者数（１４２名）
インターンシップ・長期就業訓練への参加者と参加企業への就職推移

	インターンシップ	参加者就職者	長期就業体験	参加者就職者
22 年度	１１名	０名	０名	０名
23 年度	７６名	４名	０名	０名
24 年度	８１名	９名	０名	０名
25 年度	１１３名	１０名	１２名	４名
26 年度	１１６名	１１名	１１名	５名
27 年度	９３名	１０名	８名	４名
28 年度	１４１名	１３名	７名	３名
29 年度	１３３名	２２名	９名	７名
30 年度	１３８名	１９名	６名	４名
31 年度	１４２名	２０名	２９名	０名

【課題】１１月に２学年就職希望者全員インターンシップを実施した。デュアルシステム科も１学年全員インターンシップを実施した。協力企業の開拓が課題である。

B

３　各種資格等取得者数

１　ジュニアマイスター顕彰

種　　別	目　　標	26 年度実績	27 年度実績	28 年度実績	29 年度実績	30 年度実績	31 年度実績
ゴールド	前年度以上の実績	１名	３名	０名	０名	４名	０名
シルバー	前年度以上の実績	９名	１０名	２名	５名	０名	１名
ブロンズ	－	－	－	－	－	３名	１名
特別表彰	前年度以上の実績	０名	１名	０名	０名	０名	０名
計	前年度以上の実績	１０名	１４名	２名	５名	０名	０名

※ジュニアマイスターブロンズは、平成 30 年度より新設された。

２　国家資格並びに各検定等

資　格・免　許　等		目標	26 年度合格者	27 年度合格者	28 年度合格者	29 年度合格者	30 年度合格者	31 年度合格者
危険物取扱者	丙種	前年度以上	２２名	１名	６名	３名		５名
	乙種第１類			１名				
	乙種第４類		３名	３名	５名	５名		３名
	乙種第５類			１名				
	乙種第６類			１名				
消防設備士	乙種第４類		２名	１名				
	乙種第７類		１０名	１５名		７名		
工事担任者	ＡＩ第３種		８名	８名	２名	６名		
	ＤＤ第３種		５名	１名	９名		３名	６名
	ＤＤ第１種			２名				
	ＡＩ第３種		２名	２名				
	ＡＩ・ＤＤ総合			２名				
第２種電気工事士			３４名	２２名	２７名	１５名	１８名	２４名
第１種電気工事士				３名		１名		
技能士	建築大工３級			１５名	１名			３名

	とび　　２級			１名		１名		
	とび　　３級		４名	６名	２名	１３名	７名	７名
	鉄筋施工３級					３名	１名	３名
	普通旋盤作業３級					４名	８名	
品質管理検定（ＱＣ検定）				１名				
ガス溶接技能講習			９５名	８８名	５９名	７１名	８４名	４３名
アーク溶接特別教育				９０名		１１８名		５３名
フォークリフト運転特別教育					１２２名			
高所作業車運転特別教育			５３名			４８名		
小型車両系建設機械特別教育				８９名			６２名	
玉掛・移動式クレーン特別教育			６５名		１２３名		６３名	５５名
２級建築施工管理技術者検定				５名	６名	２名	１名	
日本語ワープロ検定	準２級			１名		８名		
	３級		５名	３名		４名		
情報処理技能検定	２級		５名					
	準２級					１０名		
	３級					９名		
パソコン検定（Ｐ検）	３級					３名	３名	２名
	４級			３６名	３０名	３３名	４０名	３４名
日本漢字能力検定	準２級					４名	１名	
	３級					７名	２名	
	４級					１９名	１名	
	５級					７名		
計算技術検定	１級				１名			
	２級			２名	１名	１名		
	３級		１２６名	１００名	１６２名	１２２名	１２６名	１３１名
	４級		１０５名	１１９名	１３８名	１３４名	７９名	３２名
情報技術検定	２級				６名	５名	１２名	
	３級		４６名	５７名	３３名	６５名	７４名	４７名
ＩＴパスポート							６名	
基礎製図検定			２１名	２４名	２４名	２４名	４４名	２８名
パソコン利用技術検定３級								２８名
建設業経理事務士４級								１４名
延べ人数			６４８名	６５９名	８６８名	７５７名	６３５名	５１８名

４　次年度以降の課題と対応策

高校生としての「義務と責任」を自覚させるとともに、「時を守り、場を清め、礼を尽くす」生徒の育成を図る。

技能を重視した工業高校のリーダー校として、生徒に確かな技能・技術を身に付けさせ、自信と誇りを持たせるため教育活動を充実、発展させるため、次の特色を一層推進する。

○　活発な部活動・資格取得指導・充実した行事・ボランティア活動

○　地域に根ざし、地域に貢献する教育活動

(1) 中途退学者の減少　中途退学者０の方針を掲げ学校全体で取り組む。

① 基礎・基本の定着を図る指導を充実させ、授業を真剣に取り組み、最後まであきらめずに努力する態度を育成する。

② 都立高校学力スタンダードに基づき自校の学力スタンダードを作成して組織的・効果的な学習指導を推進して学力の定着・伸長を図ること。

③ 各学年と分掌との連携を密にし、生徒の基本的生活習慣を確立するとともに規範意識を根付かせる。

④ 定期考査毎に欠席者一覧表を作成するとともに、個別指導対策会議を設置し、課題ある生徒への指導を学校全体で取り組む。

⑤ 保護者との連携を強化するとともにスクールカウンセラーを活用し生徒の課題解決を図る。

⑥ 学校保健委員会・教育相談推進委員会を機能させ、生徒の変化を早期発見・解決できる体制とする。

⑦ 目的意識をもった生徒を入学させるため、中学校訪問を充実させる。

(2) 就職希望達成率 100％を維持し、卒業時の進路未定者を減少させる。

① 市民講師、卒業生等を活用した進路ガイダンスを充実させる。

② 計画的な進路指導を充実させる。（毎年進路希望調査を実施してデータを公表する）

③ 職場見学・インターンシップの積極的な拡大・充実を図る。（インターンシップを全員参加とする。）

④ デュアルシステムを発展・活用し進路指導を充実させる。

(3) 資格取得、検定合格の実績の維持・向上を図る。

① 講習会を充実させ、関連する授業等を活用し資格取得指導を充実させる。

② 資格取得を喚起するため情報提供や指導を工夫する。

③ 各種コンテスト・発表会に出展・出場する機会を増加させる。

(4) 規範意識と登下校時のマナーを向上させる。

① 規範意識の向上を生活指導の重点課題と位置づけ、生活指導部と学年との連携のもと、HR 指導、地域巡回指導、セーフティ教室、マナー教室等を実施し生活指導の充実を図る。

② 自転車の安全運転指導を徹底させ、交通事故０を目標とする。

③ 携帯電話・スマートホン・インターネットの正しい活用法の指導を充実させる。

④ 東京都生活指導統一基準に基づき、本校での取り組みを強化・浸透させる。

(5) デュアルシステム推進校として教育活動の充実を図る。

① インターンシップ先への企業訪問を全職員で実施する。

② 協力企業を拡充する。

(6) 地域に貢献する教育活動、部活動・生徒会活動、奉仕活動等の推進を図る。

① 各部活動の活性化を進め、加入率の向上を図るとともに生徒会活動の活性化を図る。

② ものづくり教室等の拡充を図る。

③ オリンピック・パラリンピック教育、防災教育など江戸川区役所・江戸川区教育委員会・地域自治会・地域産業団体と連携した教育活動を推進する。

(7) 校内組織体制の見直し・改善を進め、全校一致した教育体制の構築を図る。

① 将来構想会議を充実させ、新たな取り組みに結びつける。

(8) デュアルシステム科完成に向け学校全体でその仕組みづくりを構築する。

① 教育課程の策定、協力企業の開拓等について学校全体で取り組むとともに、中学生・保護者にとって魅力ある学科となるよう地域連携を重視した取り組みを推進する。